

A New Introduction to Debating in English [Book 3]

TEACHER'S MANUAL

英語ディベートを初めて指導する高校英語教員のための実践ガイド

[Pre-Lesson](#) / [Part 1](#) / [Part 1.5](#) / [Part 2](#) / [Part 2.5](#) / [Part 3](#)

2026 年8月版

小林良裕 (KOBAYASHI, Yoshihiro) / S.A.D. Works

利用について

本教材は、小学校・中学校・高等学校等における非営利の授業・部活動で利用する場合に限り、必要な部分をそのまま印刷・複製し、参加する児童・生徒に配布してご利用いただけます。教材そのものの再配布・公開・販売、内容を改変した版の配布・公開は認めていません。教員研修会など、授業・部活動以外の場での配布・利用を希望する場合は、事前に著作者の許可を得てください。

このマニュアルの使い方

最初に 本書は、生徒用冊子と併用する教員向けの指導ガイドです。授業前に、準備するもの、授業の進め方、確認すべき点を短時間で把握できるようにまとめています。

教員の判断を優先 本書は授業設計の目安です。生徒の理解度、英語力、発言への不安、クラスの人間関係などを見た結果、本書とは別の進め方が適切だと判断した場合は、生徒を実際に見ている教員の判断を優先してください。

最初から順番にすべて扱う必要はない

本教材は Pre-Lesson から順に使えるよう構成していますが、すべての活動を扱う必要はありません。生徒がすでに身につけている内容や、クラスの目標に必要な内容は省略してください。

- Pre-Lesson は、現在の中学校英語でも扱われることの多いスピーチの基本を確認する冊子です。高校生がすでに基本を身につけている場合は、省略して Part 1 から始めて構いません。
- 初めて本教材を導入する場合は、使えそうな活動を「投げ込み教材」として既存の授業に部分的に取り入れる方法を勧めます。生徒の反応や負担を見ながら、取り入れる活動の量を増減してください。
- 活動を省略する場合は、後の活動に必要な技能が身につけているかだけを確認します。必要な技能が不足している場合は、該当する活動だけを戻って扱います。

教材の全体像

冊子	主な学習内容	次の段階での活用
Pre-Lesson	スピーチの基本構成と、声・視線・練習・推敲の方法	Part 1 のスピーチ活動に生かす
Part 1	問題解決型スピーチ、要約、質問の方法	肯定側立論の作成と、相手とのやり取りに生かす
Part 1.5	3 つの論題について肯定側立論を作成	Part 2 の質問・要約・反論に使用する
Part 2	反論、否定側立論、証拠の引用と説明	ディベートに必要な技能を身につける
Part 2.5	3 つの論題について肯定側・否定側の立論を準備	Part 3 の試合で使用する
Part 3	チームで試合を行い、判定と振り返りを経験	これまでに学んだ技能を統合する

授業の基本サイクル

1. 今日の到達目標を一文で示す。専門用語ではなく「何ができるようになるか」で伝える。
2. 短いモデルを聞く・読む。リスニング課題では、先に設問を読ませる。
3. 構造や表現を確認する。抽象的な概念は日本語で説明してよい。
4. ペアまたは小グループで実際に使う。準備時間と発話時間を明示する。
5. Self Check や Peer Check を使い、次に改善する点を 1 つ決める。同じ技能を次の授業でも短時間練習する。

指導上の共通原則

- 英文の完全さより、相手に意味が伝わり、意見と理由の関係が分かることを優先する。
- 専門用語の暗記よりも、各部分が議論の中でどのような役割を果たしているかを理解させる。
- 読むだけで終わらず、短くても必ずペアで発話させる。
- JTE と ALT で指導する場合は、JTE が活動の目的と議論の組み立てを説明し、ALT がモデル発話を示したり、伝わりやすい英語表現について助言したりすると進めやすい。教員 1 名でも実施できる。
- 個人の経験に関わる論題では、経験の開示を求めない。割り当てられた立場は本人の意見ではないことを確認する。

評価・添削の負担を抑える

- 試合の勝敗を、そのまま成績には反映させない。試合では、自分の役割を適切に果たしたかを評価する。
- すべての原稿を細部まで添削する必要はない。1 つの原稿について構成上の助言を返し、その助言をほかの原稿にも生かさせる。
- 翻訳ツールなどで作った難解な英文は、正誤だけを直すのではなく、聞き手に伝わる簡潔な英語に書き直させる。
- 人前で話すことが難しい生徒には、個別発表、録音・録画、原稿評価などの代替方法を用意する。

AI を活用した英作文・スピーチ原稿の添削（任意）

生徒数が多く、教員だけですべての原稿を細かく添削することが難しい場合は、AI を下書き段階の補助として利用できます。AI に完成原稿を作らせるのではなく、生徒が自分で書いた英文を見直し、改善点を理解するために使います。

- 最初に、生徒自身が書いた原稿を入力させる。原稿を一から作成するよう AI に依頼させない。
- AI には、①議論の構成、②内容の分かりやすさ、③文法・語法、④より簡潔な英語、の順に助言を求める。
- AI が提示した修正文をそのまま提出させず、元の原稿と比較し、採用する修正を生徒自身に選ばせる。
- 修正前と修正後の原稿を残し、変更した箇所と変更理由を少なくとも 1 つ説明させる。
- 氏名などの個人情報や、公開できない学校情報は入力させない。利用するサービスやアカウントは、各校の情報管理方針に従う。
- AI の指摘が常に正しいとは限らない。教材で学んだ構成に合っているかを生徒が確認し、最終的な評価は教員が行う。

具体的な利用手順、入力例、指導上の留意点は、[「英語ディベートの教室」の案内を参照してください。](https://debate-class.com/)

(<https://debate-class.com/>)

サイトの内容は更新されることがあるため、実施前に「AI を使った英作文・スピーチ原稿の添削」に関する最新の説明を確認してください。

年間の組み立て

授業回数は学校によって異なります。特定の年度や曜日を前提にせず、次の学習順序を保ちながら、各校の年間計画に合わせて調整してください。

50 分授業の基本配分

基本 通常は、50 分のうち最初の 20 分を、ほかの任意の教材を使ったリスニング練習などに充て、残りの約 30 分で本教材を扱うことを想定しています。

時間	内容	補足
0～20 分	ほかの任意の教材によるリスニング、語彙、教科書活動など	本教材とは別の活動
20～50 分	本教材によるスピーチ、要約、質問、反論など	原則として約 30 分
例外	Speaking Test、3 学期に複数の試合を行う授業	必要に応じて 50 分全体を使用

以下の年間モデルも、特記がない限り、本教材を約 30 分扱う前提です。30 分で終わらない原稿作成や書き直しは、授業外の課題に回して構いません。

段階	教材	優先する内容
導入	Pre-Lesson	モデル発表 → 第一稿の作成 → 相互助言 → 第二稿の作成 → 発表
基礎	Part 1	Lesson 1 問題解決型スピーチ → Lesson 2 要約 → Lesson 3 質問
課題	Part 1.5	Part 2 を始めるまでに肯定側立論を準備
発展	Part 2	Lesson 4 反論 → Lesson 6 否定側立論 → Lesson 7 証拠
課題	Part 2.5	Part 3 を始めるまでに肯定側・否定側の立論を準備
統合	Part 3	Short format で試合 → 判定 → 改善 → 必要に応じて Long format

週 1 回・年間 42 回の授業モデル

目安 1 学期 15 回、2 学期 15 回、3 学期 12 回を想定したモデルです。以前の Teaching Plan の学習順序を基本にしながら、Lesson 5、Speaking Test、課題説明、試合後の改善まで含めています。各回の主な内容は、特記がない限り約 30 分で扱います。学校行事、定期考査、クラスの進度に応じて調整してください。

Recitation Practice は独立した 1 時間にせず、該当する学期の授業冒頭に 3～5 分ずつ取り入れます。Part 1.5 と Part 2.5 は、授業中に書き始め、残りを長期休業中または授業外の課題にすることもできます。

1 学期（15 回）：スピーチ、要約、質問

回	教材(生徒用冊子)	主な内容
1	Part 1 p.4-5	授業の目的を共有し、1 分間モノログと Evaluation Sheet の使い方を確認する
2	Pre-Lesson p.2-3	教員のモデル発表を聞き、スピーチの基本構成と話し方を分析する
3	Pre-Lesson p.4-5	題材を選び、ブレインストーミングを行って第一稿を書く
4	Pre-Lesson p.6-8	相互に助言し、第二稿を作る。強調、間、写真を見せる位置を考えて練習する
5	Pre-Lesson p.9-10	発表と相互評価を行う。時間があれば、動画を見て効果的な話し方を観察する
6	Part 1 p.10-11	1-1 の問題を検討し、Problem・Solution・Importance の構成を導入する
7	Part 1 p.12-13	Topic を選び、内容を構想して Problem-Solution Speech の第一稿を書く
8	Part 1 p.14	Self Check と Peer Check を行い、原稿を書き直す。Speaking Test の方法を説明する
9	Part 1 p.15	Speaking Test として Problem-Solution Speech を発表する
10	Part 1 p.16-17	スピーチを聞いてキーワードをメモし、口頭または筆記で要約する
11	Part 1 p.18-19	要約を相互に確認し、Lesson 1 の原稿を使ってペアで要約する
12	Part 1 p.22-23	聞き取れなかった点や曖昧な点を明確にする質問を練習する
13	Part 1 p.24-25・27	Fact と Opinion を区別し、根拠が示されていない意見について質問する
14	Part 1 p.26-27	因果関係の途中にある説明を確認し、論理の飛躍を質問する
15	Part 1.5 p.3-12	課題の目的と進め方を説明し、Task 1～3 を確認して肯定側立論を書き始める

夏季休業中の課題例: Part 1.5 の 3 論題について肯定側立論を完成させ、2 学期の最初に持参させます。

2 学期（15 回）：反論、否定側立論、証拠

回	教材(生徒用冊子)	主な内容
1	Part 2 p.3-6	Part 1.5 の原稿を使って質問と要約を復習し、not always true / not important による反論を学ぶ
2	Part 2 p.7-8	not relevant / another way / the opposite を使った反論を練習する
3	Part 2 p.9-10	hidden assumption を見つけ、前提が成り立たない理由を説明する
4	Part 2 p.11-14	完成したスピーチを聞き、相手の議論から 1 点を選んで反論する
5	Part 2 p.16-19	Lesson 5 のミニディベートで、立論・質問・要約・反論を組み合わせる

回	教材(生徒用冊子)	主な内容
6	Part 2 p.21-22	Present Situation・Causal Link・Seriousness という否定側立論の 3 要素を理解する
7	Part 2 p.23-25	Topic を選び、disadvantage を構想して否定側立論の第一稿を書く
8	Part 2 p.26-29	否定側立論への反論と 4 人のミニディベートを行う
9	Part 2 p.30-35	出典の紹介、直接引用、証拠の説明という基本的な流れを学ぶ
10	Part 2 p.36-41	自分の原稿から claim を選び、Evidence Card を作る
11	Part 2 p.42-47	直接引用と間接引用を使い分け、グラフの数値を選んで説明する
12	Part 2 p.48	証拠の弱点を確かめる質問を考え、原稿に入れた証拠と説明を見直す
13	Part 2 p.39 ほか	Speaking Test に向けて、証拠を加えた否定側立論を相互に確認し、発表練習を行う
14	Part 2 p.39 ほか	Speaking Test として、証拠を加えた否定側立論の全体または指定された部分を発表する
15	Part 2.5 p.3-14	3 論題と Plan Setup を確認し、肯定側・否定側の立論課題と証拠の追加方法を説明する

冬季休業中の課題例: Part 2.5 の 3 論題について肯定側・否定側の立論を完成させます。Part 3 を始める前に返却できるよう、提出日を設定してください。

3 学期 (12 回) : クラス内ディベート

第 1・2 回で試合の進め方を確認し、第 3 回頃からは、1 回の授業につき、各テーブルで 3 ラウンド程度を行います。第 3 回以降は、必要に応じて 50 分全体をディベートに使用します。

回	教材・資料	主な内容
1	Part 3 p.3-5	学習目標と試合形式を確認し、チーム編成、役割分担、座席移動を練習する
2	Part 3 p.6-15	役割別の表現、議長の進行、Flow Sheet、判定方法を確認し、短い練習試合を行う
3	Part 2.5 p.3-14・Part 3 p.4-17	Topic 1 に加えて、即興的な論題で 3 ラウンド程度を行う。ラウンドごとに立場または役割を替え、改善点を 1 つ記録する
4	Part 2.5 p.3-14・Part 3 p.4-17	Topic 2 に加えて、即興的な論題で 3 ラウンド程度を行う。質問と要約が相手の内容に対応しているかを確認する
5	Part 2.5 p.3-14・Part 3 p.4-17	Topic 3 に加えて、即興的な論題で 3 ラウンド程度を行う。相手の議論から 1 点を選んで反論する
6	Part 3 p.4-17・論題集	サイトの論題集から即興論題を 1 つ選び、短い準備の後、3 ラウンド程度を行う
7	Part 3 p.4-17・論題集	前時とは異なる即興論題を選び、3 ラウンド程度を行う。ジャッジの判定理由を共有する

回	教材・資料	主な内容
8	Part 2.5・Part 3・論題集	Part 2.5 の 3 論題またはサイトの論題集から選び、3 ラウンド程度を行う。未経験の役割を優先する
9	Part 3 p.4-17・論題集	新しい即興論題で 3 ラウンド程度を行い、質問と反論の改善に重点を置く
10	Part 2.5・Part 3・論題集	論題を選んで 3 ラウンド程度を行う。順位決定戦、代表選考、または技能別の補充試合として運営してもよい
11	Part 2.5・Part 3・論題集	論題を選んで最終の 3 ラウンド程度を行う。慣れたクラスでは一部を Long format にし、勝敗を分けた議論を共有する
12	Part 3 p.16-18	Match Records と Can-do Checklist を使って年間の学習を振り返り、今後の課題を決める

年間モデル中の即興論題は、[「英語ディベートの教室」の論題集から選びます。](https://debate-class.com/debate-topics/)(<https://debate-class.com/debate-topics/>)

授業数が少ない場合の優先順位

1. Part 1 の Lesson 1(立論)、Lesson 2(要約)、Lesson 3 の明確化質問を残す。
2. Part 2 は 4-1・4-2(反論の基本)、6-1・6-2(否定側立論)、7-1・7-2(証拠の基本)を優先する。Lesson 5 は省略してもよい。
3. Part 1.5 と Part 2.5 は授業外の課題にできる。ただし、次の Part で使用する前に提出させ、教員からの助言とともに返却する。
4. Part 3 では、少なくとも Short format による試合を 1 回行い、判定と振り返りまで実施する。

評価の例

場面	見るもの	留意点
Part 1 の発表	主張、Problem・Solution・Importance の構成、伝わりやすさ	内容は原稿で判断、話し方についての評価は個々の状況に応じて
Part 2 の発表	否定側立論の 3 つの要素、証拠の紹介・引用・説明	証拠の取り扱い(架空のものを許可するか)
Part 3 の試合	相手の議論を正確に理解し、応答・協力できたか	役割ごとに用いる英語表現も異なるので、試合の様子を成績評価に用いるのは避けた方が

Pre-Lesson: The Basics of Public Speaking

到達目標 Introduction / Body / Conclusion を意識し、自分にとって大切なものを、聞き手を見ながら分かりやすく紹介する。

準備

- ・教員のモデル発表で紹介する品物または写真を 1～2 点用意する。高価な物よりも、生徒が自分の発表にも取り入れやすい身近な題材がよい。
- ・発表日、発表時間の目安、発表時に原稿を参照できるかどうか、評価方法をあらかじめ決める。
- ・動画を使う場合は、授業前に再生と音声を確認する。

進め方

範囲	授業で行うこと	教員の確認
p.2	教員のモデル発表を 2 回聞き、内容と話し方についてメモを取る	声、視線、間、姿勢のうち、何に注目して聞くかを先に示す
p.3	見本スピーチを聞いて空所を補い、基本構成を確認する	1 回目は自然な速さで読み、2 回目は空所の前後に短い間を置く
p.4-5	題材を選び、内容をメモして第一稿を書く	最初は完全な英文を書かせず、キーワードで内容を整理させる
p.6-8	相互に助言し、第二稿を作る。強調、間、写真を見せる位置も考えて練習する	よい点、分かりにくい点、質問をそれぞれ 1 つ示させる
p.9	発表し、聞き手どうして評価する	One good point と One suggestion を 1 つずつ書かせる
p.10	動画を見て、効果的な話し方を観察する	内容への賛否ではなく、声・視線・間などの話し方に注目させる

解答

設問	解答
p.3 Speech Script	(1) treasure (2) violin (3) six (4) gave (5) festival (6) violinist
p.3 Basic Structure	(7) Greeting (8) Body (9) Conclusion

よくあるつまづき

- ・題材が決まらない場合：写真、部活動で使う道具、長く使っている文房具、誰かからもらった物など、具体的な物から選ばせる。

- 英文が書けない場合: What is it? / Who gave it to you? / Why is it important? という 3 つの質問への答えを、1 文ずつ書かせる。
- 原稿から目を離せない場合: 全文の暗記は求めず、強調する語とキーワードだけを見て話す練習をさせる。

Part 1: The Basics of Argumentative Speech

Speech Practice (p.4–9)

目的 身近な話題について、既習の英語を使って一定時間話し続ける練習です。その場で完成度の高い議論を作ることが目的ではありません。

1. Topic を 1 つ選び、賛成または反対の立場から話す内容を 30 秒～1 分で考える。
2. Useful Expressions を全員で短く口頭練習する。
3. まずはペアで 30 秒間話し、慣れたら 1 分間に延ばす。聞き手は、おおよその語数と印象に残った内容を 1 つ記録する。
4. 役割を交代し、Evaluation Sheet に記録する。年間を通して、短時間の練習として繰り返す。

Lesson 1: Problem-Solution Speech (p.10–15)

到達目標 Body を Problem / Solution / Importance の 3 つの部分で構成し、問題と解決の仕組みを説明する。

範囲	進め方	要点
1-1 p.10	Words List を使って空所を補い、解決案を考える	複数の答えを認め、後で理由を説明できる案になっているかを確認する
1-2 p.11	スピーチを聞いて空所を補い、3 部構成を確認する	空所のある原稿を見ながら聞かせてよい
1-3 p.12	Topic を選び、各部分の内容をメモする	Solution では、提案だけでなく、なぜ問題を解決できるのかまで書かせる
1-4 p.13	第一稿を書く	難しい表現よりも、聞き手に伝わる簡潔な英語を優先する
1-5 p.14	Self Check を行った後、Peer Check を行う	まず自分で見直してから、相手の助言を受ける
1-6 p.15	発表し、聞き手は内容をメモする	話す練習だけでなく、聞いて理解する活動としても扱う

Lesson 1 解答

設問	解答
1-1 Words List	(1) problem (2) more (3) in (4) solve
1-2 Speech Script	(1) problem (2) number (3) late (4) miss (5) put (6) far (7) two (8) stop (9) turn (10) part
1-2 Structure	(11) problem (12) Why (13) solution (14) How

Lesson 2: Listening & Summarizing (p.16–20)

到達目標 相手の主張と Problem / Solution / Importance をキーワードでメモし、自分の言葉で短く要約する。

1. まず p.16 の表を確認させる。p.20 の Sample Speech は、最初のリスニングが終わるまで見せない。
2. 教員が p.20 の Sample Speech を 1～2 回読み上げる。生徒には、完全な文ではなくキーワードをメモさせる。
3. p.17 で、口頭または 3～5 文の筆記による要約を行う。授業時間に応じて、どちらか一方だけでもよい。
4. p.18 で発表者が要約を確認し、p.19 で互いの Lesson 1 原稿を使って交代する。

要約例: The speaker thinks students should go to school by mikoshi. The current way of commuting is boring and students do not work together. Carrying a mikoshi would make commuting more exciting and improve teamwork. The speaker believes this would make school life better.

Lesson 3: Question & Answer (p.22–27)

到達目標 聞き取れない点を確認し、根拠の弱い意見や因果関係の飛躍を質問によって検討する。

Section	技能	指導の焦点
3-1 p.22–23	内容を明確にする質問	Wh-question と Yes-No question を目的に応じて使い分ける
3-2 p.24–25	Fact と Opinion の区別、根拠が示されていない意見	意見そのものを否定するのではなく、その意見を支える理由を尋ねる
3-3 p.26–27	因果関係の検討	原因から結果までに起こることを順に並べ、説明が不足している箇所を質問する

Lesson 3 解答

設問	解答
3-1	(1) first / start (2) 7:30 (3) two (4) club activities (5) stand (6) come / earlier (7) concentrate / class
3-2 Step 1	Opinion, Fact, Fact, Opinion, Fact, Opinion, Fact, Opinion, Opinion, Fact
3-2 Step 2	下線例: (1) best (4) better (6) can / dangerous (8) interesting (9) should
3-2 Step 3	②、④、⑤、⑦、⑧(③も、スピーチ内で支えられていない意見として扱うなら可)
3-3 Step 1	⑥ → ② → ⑤ → ① → ④ → ⑦ → ③

Recitation Practice 1・2

- 一度に全文を暗記させず、授業の冒頭に 2～5 分ずつ、音読する → 一部を隠す → ペアで再現する、という順で練習させる。
- 評価する場合は、一語一句の暗記よりも、signpost、意味のまとまり、聞き手への伝わりやすさを見る。

Part 1.5: From Problem-Solution Speech to English Debate

位置づけ Part 1 で学んだ構成を使い、3 つの論題について肯定側立論を作る課題です。授業中の活動、授業外の課題、長期休業中の課題のいずれにも使えますが、Part 2 を始めるまでに完成させてください。

課題 1 (p.3-7)

1. Task 1A・1B で、各段落の役割と並べる順序を復習する。
2. Task 2 では、後に続く文の内容から政策を表す文を推測し、空所を補う。
3. Task 3 では、段落どうしのつながりを考えて、指定された段落を適切な位置に挿入する。p.6 の接続表現は、暗記させるのではなく、原稿を推敲するときに参照させる。
4. p.7 のモデルスピーチでは、Problem → Solution → Importance の流れと出典の示し方を確認する。

課題 1 解答

設問	解答
Task 1A	③ → ① → ④ → ②
Task 1B	③ → ② → ⑤ → ① → ⑥ → ④
Task 2	例:the voting age should be lowered to 16.
Task 3 Paragraph A	第 5 パラグラフの直前
Task 3 Paragraph B	第 3 パラグラフの直前

課題 2 (p.8-12)

Topic 1「義理チョコ」、Topic 2「学校でペンギンを飼う」、Topic 3「1 か月の留学」について、肯定側立論を 1 つずつ作ります。この段階では、調査や引用は必須ではありません。Part 2 で質問や反論の練習に使うため、完成度の高い原稿に仕上げる必要もありません。

1. p.8 のリストから、政策の影響を受ける人や団体を 1 つ選ぶ。
2. 選んだ当事者が抱える Problem を 1 つに絞り、政策による Solution と Importance へつなげる。
3. p.10-12 の用紙に立論を書く。Signpost(The reason is ...)は、短く具体的な表現にする。
4. 各原稿は、内容のつながり、説明の具体性、英語の伝わりやすさという 3 点を優先して確認する。

簡易評価 A:構成がつながっている、B:説明が具体的である、C:簡潔な英語で内容が伝わる、という 3 つの観点を使います。それぞれ 3 段階程度で評価すれば十分です。

Part 2: Basic Debating Skills

Before Lesson 4 (p.3)

Part 1.5 で作った肯定側立論を使い、①根拠が弱い点について質問する、②Problem・Solution・Importance を要約する、という 2 つの活動を交代で行います。Part 1 で学んだ技能を復習してから、反論の学習へ進みます。

Lesson 4: Refutation (p.4-14)

到達目標 相手のポイントを正確に繰り返し、問題点の種類を選び、because で理由を示して反論する。

Section	新しく扱うこと	解答・要点
4-1 p.4-6	not (always) true / not important を使った、反論の基本的な三段階	1 not always true / 2 not important / 3 not important / 4 not always true
4-2 p.7-8	not relevant / another way / the opposite	1 another way / 2 opposite / 3 not relevant / 4 another way / 5 opposite
4-3 p.9-10	議論の前提となっている hidden assumption	Step 1: Dialogue 1 b / Dialogue 2 a
4-4 p.11-14	完成したスピーチから一点を選んで反論する	Step 1: (1)b (2)c (3)a (4)b (5)c

4-3 Quick Assumption Challenge の対応

Plan	Hidden assumption	反論理由の例
座席選択	集中しやすい席を選ぶ	友人の近くで話すかもしれない
カラオケ	主に英語練習に使う	好きな歌だけ歌うかもしれない
生成 AI	答えを確認して考える	確認せずコピーするかもしれない
締切廃止	時間を改善に使う	開始を先延ばしにするかもしれない

4-4 反論例: Let me respond to one point in the speech. The speaker said that public piano music may help people relax. This argument is based on the assumption that most people at train stations will enjoy the music. However, this assumption may not be true because some people may find the music noisy or distracting. For this reason, this argument does not stand. Thank you.

反復 反論は、一度練習しただけですぐにできるようになるものではありません。以後の授業の冒頭に 2 ～5 分を取り、4-1 Step 3 または 4-3 Step 3 を繰り返します。毎回、You said ... と because を使っているかを確認してください。

Lesson 5: Mini-Debate Practice (p.16–19 ・ 発展)

3 人 1 組で、立論 → 質問 → 要約、または立論 → 質問 → 反論という流れで活動します。新しい技能を導入する Lesson ではなく、既習事項を組み合わせる練習なので、授業時間が足りない場合は省略できます。

- 準備時間は 30 秒、各自の発話時間も 30 秒程度から始める。
- 要約には自分の意見を加えない。反論では、相手の議論から一点だけを取り上げる。
- 肯定側の原稿を否定側に直接見せず、相手の発言を聞いて応答させる。

Lesson 6: Strategies for the Negative Side (p.21–29)

到達目標 政策によって生じる disadvantage を、Present Situation・Causal Link・Seriousness の 3 つの部分に分けて説明する。

Body part	生徒に問うこと
Present Situation	今はどのような状態か。現状に大きな問題がないのはなぜか。
Causal Link	政策によって何が変わり、どのような順序で悪い結果が生じるか。
Seriousness	誰が、どのような不利益を受け、それはなぜ深刻か。

1. 先に p.21 の設問を読ませ、p.22 を見せずにスピーチを一度聞かせる。
2. p.22 を開かせ、3 つの Body Part がそれぞれ果たす役割を確認する。解答は、(1)b (2)a (3)b (4)b。
3. p.23 から論題を 1 つ選ばせ、p.24 で disadvantage を 1 つに絞って内容を考えさせる。
4. Causal Link を「政策 → 変化 → 問題」の順に声に出して説明させ、論理が飛躍している箇所を自分で見つけさせる。
5. p.25 に第一稿を書かせる。Lesson 7 で証拠を加えるため、原稿は保存させる。
6. p.26–27 で否定側議論への反論、p.28–29 で 4 人のミニディベートを行う。

6-3 解答

設問	解答
Step 1	Q1 a / Q2 b / Q3 a
Step 2	Q1 b / Q2 b(Causal Link)

Lesson 7: Using Evidence (p.30–48)

到達目標 証拠を Source Introduction・Supporting Information・Explanation の 3 つの要素で示し、直接引用、間接引用、グラフを目的に応じて使い分ける。

Section	進め方	解答
7-1 p.30–35	p.30 の設問を読んでから p.35 の Sample Speech を聞き、出典の紹介 → 引用 → 説明という流れを確認する	Step 1: c, b, a, a / Step 3: 2024, researcher, concentrate, The Shin-Ikebukuro Times, May 20 2025, crowded
7-2 p.36–41	自分の否定側原稿から claim を 1 つ選び、Evidence Card を作る	自由記述。原稿全体を書き直す必要はない
7-3 p.42–47	直接引用と間接引用の違い、グラフの読み取り方と説明の仕方を学ぶ	下の表を参照

Section	進め方	解答
7-4 p.48	証拠の弱点を確かめる質問を考え、最も適切な質問を選ぶ	Step 2: 1-d 2-a 3-c 4-b

7-3 解答

設問	解答
Step 1 Task A	Direct: Yes / Yes / No / Yes Indirect: No / No / Yes / Yes
Step 1 Task B	a
Step 2 Task A	(1)a (2)b (3)a
Step 2 Task B	(1) bar graph (2) 6.8 (3) 6.1 (4) reduce
Evidence Card 確認	(1)c (2)b (3)a

- 直接引用では、原文を一語一句正確に読む。間接引用では、原文の意味を変えずに自分の言葉で述べ、quote / unquote は使わない。どちらの場合も出典を示す。
- グラフの数値をすべて読み上げる必要はない。自分の claim を支える数値を選び、最後に This graph shows ...を使って、その数値が何を示しているかを説明する。
- 教材内にある練習用の架空資料は、実際の試合やレポートで事実として使用しないように指導する。

Part 2.5: Preparing for the Class Debate Competition

位置づけ 3つの論題について、肯定側と否定側の立論を1つずつ、計6つ準備します。Part 3では試合ごとに立場が変わるため、両方の原稿を保存させてください。

課題の進め方

1. p.3-5で、論題、Plan Setup、Background Information、Points to Considerを確認する。Plan Setupで定められた政策の意味を変えずに議論させる。
2. p.6-11で、肯定側と否定側の立論を書く。最初に Signpost を決め、Body の3つの部分がつながるように構成する。
3. 6つの原稿すべてを細部まで添削する必要はない。各論題について片側の原稿に構成上の助言を返し、その助言を反対側の原稿にも生かさせる。
4. 証拠の追加は発展課題として扱う。必要に応じて p.12-14 を使い、教員が指定した原稿に証拠を1つ加えさせる。p.3-5の Background Information を資料として使ってよい。
5. Part 3 を始める前に必ず返却し、チームで使用する原稿を選ぶようにしておく。

各論題で考えられる議論

Topic	Affirmative の入口	Negative の入口
1 救急車の有料化	不要不急の利用を減らし、緊急性の高い患者への対応を早める	費用を心配して通報が遅れ、特に低所得者が大きな影響を受ける
2 医学部入学者の男女同数化	性別による不公平な扱いを防ぎ、医学教育を受ける機会の公平性を高める	個人の成績よりも男女をほぼ同数にする運用が優先され、成績が十分でも不合格になる可能性がある
3 父親の育休1年義務化	育児の分担を促し、母親が仕事を続けやすくする	各家庭が期間を選ぶ自由を狭め、職場や家計に負担が生じる

立論構成の簡単な例

Topic	Affirmative	Negative
Ambulance fee	Problem: non-urgent calls / Solution: fee discourages them / Importance: ambulances reach serious cases sooner	Present: people call without cost worry / Link: fee causes hesitation / Seriousness: delayed treatment may worsen illness
Medical admissions	Problem: unfair treatment / Solution: approximately equal admissions prevent exclusion / Importance: fair access and trust	Present: common standards assess individuals / Link: an approximately equal-admissions policy may override some results / Seriousness: unfair rejection and lost trust

Topic	Affirmative	Negative
Parental leave	Problem: unequal childcare and career costs / Solution: one-year leave shares care / Importance: supports careers and family relationships	Present: families choose a suitable period / Link: compulsory year removes flexibility / Seriousness: burden on families and workplaces

センシティブな論題

- 医学部の論題では、入学者選抜の公平性を論じる。性別によって能力や適性が異なるという主張を、論拠として用いない。
- 育児休業の論題では、生徒に家庭での経験を話すよう求めず、制度が社会や家庭に与える影響として扱う。
- 割り当てられた肯定側・否定側の立場は、生徒本人の意見とは限らない。試合後に、自分の考えを短く書かせてもよい。

Part 3: Class Debate Matches

到達目標 Part 2.5 で作った立論を使い、試合の流れの中で質問、要約、反論を実践する。相手の議論を聞いて応答し、その経験を次の試合での改善につなげる。

初回の授業までに準備するもの

- ・1 チーム 3～5 人、原則として 4 人になるように編成し、チーム番号とチーム名を決める。
- ・対戦するチーム、肯定側・否定側、ジャッジ、議長、使用するテーブルが分かる座席スライドを用意する。
- ・タイマー、Part 3 p.14 のバロット、p.15 の Flow Sheet。
- ・欠席者がした場合の兼任方法を決める。3 人チームでは、Questioner と Refutation を同じ生徒が担当できる。
- ・全員が Part 2.5 の原稿を持っていること。

Short / Long format (Part 3 p.4)

順	Role	Short	Long
1	A1 Affirmative Constructive	1:00	1:30
2	N2 Questions to A1 / A1 answers	0:30	1:00
3	N1 Negative Constructive	1:00	1:30
4	A2 Questions to N1 / N1 answers	0:30	1:00
5	N3 Summary of A1	0:30	0:45
6	A3 Summary of N1	0:30	0:45
7	N4 Refutation of A1	0:30	1:00
8	A4 Refutation of N1	0:30	1:00

初回は Short format を使用します。判定と席の移動を含め、1 ラウンドに必要な時間は約 10～12 分です。時間が足りない場合は試合数を減らし、振り返りの時間は確保してください。

3 学期の試合数と論題

目安 第 1・2 回で試合の流れを確認し、第 3 回頃からは、1 回の授業につき、各テーブルで 3 ラウンド程度を行います。第 3 回以降は、通常の約 30 分に限定せず、必要に応じて 50 分全体を試合に使います。

- ・最初は、Part 2.5 で準備した 3 つの論題を使います。準備済みの立論を使うことで、試合の手順と各役割に集中できます。
- ・3 つの論題だけを繰り返すのではありません。試合の流れに慣れた後は、「英語ディベートの教室」の論題集から別の論題を選び、即興ディベートを行います。

- ・即興ディベートでは、論題を示して短い準備時間を取り、調査や証拠の提出は求めません。既有知識を使って立論、質問、要約、反論を組み立てる練習にします。
- ・ラウンドごとに肯定側・否定側や役割を替えます。各ラウンド後は、次に改善する点を 1 つだけ記録し、次のラウンドですぐに試します。

即興ディベートの論題は、[「英語ディベートの教室」の論題集から選べます。](https://debate-class.com/debate-topics/) (https://debate-class.com/debate-topics/)

1 ラウンドの運営

1. 座席スライドを表示し、対戦相手、立場、ジャッジ、議長を確認させてから移動させる。
2. 議長は Part 3 p.10 を使って、発言の順序と時間を管理する。初回は、教員が必要に応じて全体の進行を一時停止し、手順を確認してよい。
3. 全員に p.15 の Flow Sheet を使わせる。試合の始めに、affirmative advantage と negative disadvantage の Signpost を記入させる。
4. 試合後、各ジャッジは p.12-14 の基準に沿って、それぞれ独立して投票する。バロットには、勝敗を分けた点を 1 つ書く。
5. 議長がバロットを回収し、結果を伝える。生徒は p.16-17 に、次の試合で改善する点を 1 つ記録する。

役割別の教員チェック

Role	確認すること
A1 / N1 Constructive	Part 2.5 の原稿を使用する。Signpost と Body の 3 つの部分が、聞き手に分かるように話しているかを確認する。
A2 / N2 Questioner	内容を確認する質問と議論を検討する質問を区別し、1～2 問に絞る。答える側にも簡潔に答えさせる。
A3 / N3 Summary	自分の意見を加えず、相手の主張と Body の 3 つの部分を正確に伝えているかを確認する。
A4 / N4 Refutation	相手の議論から一点を正確に取り上げ、Lesson 4 で学んだ型と because を使っているかを確認する。
Judges	試合中に述べられた内容だけを比較し、英語の流暢さや自分の意見を基準に判定しない。
Chairperson	議論の内容を判定せず、発言の順序と時間を管理し、試合後にバロットを回収する。

判定の教え方 (p.12-14)

比較 肯定側の advantage と否定側の disadvantage を、それぞれ「どの程度起こりそうか」「どの程度重要または深刻か」という 2 つの観点で比較します。数値による計算を行う必要はありません。

1. 両側の立論から、advantage と disadvantage をそれぞれ特定する。

2. 質問、要約、反論を踏まえ、それぞれの議論がどの程度弱くなったかを確認する。一点に対する反論だけで、議論全体が無効になったとは判断しない。
3. 質疑と反論を終えた時点での議論の強さを比較し、より強い側に投票する。同程度であれば、反論 → 例・証拠 → 要約 → 質問の順で比較する。
 - ・試合中に説明されなかった内容を、ジャッジ自身の知識で補わない。
 - ・英語の流暢さそのものを勝敗の理由にしない。実際に伝わった議論の内容を比較する。
 - ・ジャッジどうして判定をそろえず、それぞれが独立して判断する。
 - ・バロットには「どの議論が、どの反論後も残ったか」のように、勝敗を分けた一点を書く。

Flow Sheet の最低限の使い方 (p.11・15)

- ・完全な文を書く必要はない。略語、日本語、矢印を使ってよい。
- ・質問への答えと反論を、対応する立論の横に書く。
- ・Summary の専用欄はない。立論のメモと照合し、相手の議論が正確に要約されているかを確認する。
- ・ディベーターは自分の役割に必要な情報、ジャッジは両側の流れを記録する。

試合後

- ・長い感想を書かせるのではなく、「勝敗を分けた点」と「次に改善する点」を 1 つずつ書かせる。
- ・次のラウンド前に、立論原稿または役割メモへ改善を書き込ませる。
- ・最後に p.18 の Can-do Checklist を使い、自己評価が上がった項目と今後の課題を 1 つずつ選ばせる。

さらに練習したい生徒への AI アプリ (任意)

クラス内の試合だけでは練習量が足りないと感じる生徒には、教員が AI を使った練習アプリを用意し、授業外または授業内の個別学習で使わせてもよいでしょう。AI アプリは対人の試合に代わるものではなく、質問、要約、反論などを繰り返し練習するための補助として位置づけます。

- ・練習する技能を 1 つに絞る。例: 30 秒で質問する、相手の立論を要約する、You said ... because ... の形で反論する。
- ・AI とのやり取りを行った後、うまくできた点と次に直す点を 1 つずつ記録させる。
- ・AI が返した議論や判定を正解として扱わず、生徒用冊子の構成と表現に照らして確認させる。
- ・AI アプリの得点や勝敗を、そのまま成績には用いない。練習回数、振り返り、実際の試合での改善を確認する。
- ・氏名などの個人情報や、公開できない学校情報は入力させない。学校の端末・アカウント・生成 AI 利用の方針を確認する。

利用できる練習アプリや最新の説明は、[「英語ディベートの教室」の AI アプリ案内を参照してください。](https://debate-class.com/apps/)
(<https://debate-class.com/apps/>)

授業直前用：読み上げスクリプト一覧

課題	設問	読むもの	伏せるページ
Pre-Lesson Sec.2	Pre-Lesson p.3	同じページの Speech Script に解答を補い、2 回読み上げる	なし
Part 1 [1-2]	Part 1 p.11	同じページの空所がある Speech Script を 2～3 回読み上げる	なし
Part 1 [2-1]	Part 1 p.16	Part 1 p.20 Sample Speech (mikoshi)を 1～2 回	Part 1 p.20
Part 1 [3-1]	Part 1 p.22	Part 1 p.23 Speech Script を 2 回	Part 1 p.23
Part 1 [3-2] Step 1	Part 1 p.24	Part 1 p.27 上段の 10 文を 1～2 回	Part 1 p.27
Part 1 [3-2] Step 3	Part 1 p.25	同じページの Speech Script を 1～2 回読み上げる	なし
Part 1 [3-3]	Part 1 p.26	Part 1 p.27 下段 Speech Script を 1～2 回	Part 1 p.27
Part 2 [4-4]	Part 2 p.11	Part 2 p.12 Speech Script を 1 回	Part 2 p.12
Part 2 [6-1]	Part 2 p.21	Part 2 p.22 Speech Script を 1 回	Part 2 p.22
Part 2 [7-1]	Part 2 p.30	Part 2 p.35 Sample Speech を 1 回	Part 2 p.32-35

- スクリプトを読む前に、設問と選択肢を生徒に読ませる。
- 1 回目は自然な速さで読み、必要であれば 2 回目は要所に短い間を置く。
- 聞き取りが難しい生徒には、伏せるページを見せながら追わせてもよい。

解答一覧

Pre-Lesson

設問	解答
Sec.2 Speech Script	(1) treasure (2) violin (3) six (4) gave (5) festival (6) violinist
Sec.2 Basic Structure	(7) Greeting (8) Body (9) Conclusion

Part 1

設問	解答
1-1 Words List	problem / more / in / solve
1-2 Speech Script	problem / number / late / miss / put / far / two / stop / turn / part
1-2 Structure	problem / Why / solution / How
3-1	first or start / 7:30 / two / club activities / stand / come or earlier / concentrate or class
3-2 Step 1	Opinion / Fact / Fact / Opinion / Fact / Opinion / Fact / Opinion / Opinion / Fact
3-2 Step 2	best / better / can, dangerous / interesting / should
3-2 Step 3	② ④ ⑤ ⑦ ⑧(③も可)
3-3 Step 1	⑥ → ② → ⑤ → ① → ④ → ⑦ → ③

Part 1.5

設問	解答
Task 1A	③ → ① → ④ → ②
Task 1B	③ → ② → ⑤ → ① → ⑥ → ④
Task 2	例:the voting age should be lowered to 16.
Task 3 A / B	A: 第 5 パラグラフ直前 / B: 第 3 パラグラフ直前

Part 2

設問	解答
4-1	not always true / not important / not important / not always

設問	解答
	true
4-2	another way / the opposite / not relevant / another way / the opposite
4-3 Step 1	Dialogue 1 b / Dialogue 2 a
4-4 Step 1	b / c / a / b / c
6-1 Step 1	b / a / b / b
6-3 Step 1	a / b / a
6-3 Step 2	b / b(Causal Link)
7-1 Step 1	c / b / a / a
7-1 Step 3	2024 / researcher / concentrate / The Shin-Ikebukuro Times / May 20, 2025 / crowded
7-3 Step 1 Task A	Direct Yes/Yes/No/Yes; Indirect No/No/Yes/Yes
7-3 Step 1 Task B	a
7-3 Step 2 Task A	a / b / a
7-3 Step 2 Task B	bar graph / 6.8 / 6.1 / reduce
7-3 Evidence Card	c / b / a
7-4 Step 2	1-d / 2-a / 3-c / 4-b

自由記述課題、要約、反論、立論の解答は、上記の例と同じ英文である必要はありません。設問の目的に合い、内容どうしの関係が明確で、聞き手に伝わる英語であれば、別の表現も正解として認めてください。

© 2026 Yoshihiro Kobayashi / S.A.D. Works